

優秀賞

支え合っしんをわんすん

静岡県 静岡市立末広中学校三年 藤浪 令菜

「夕食の時間だから、掃除なんてしなくていいよ！」

私が小学五年生の時に祖母に強く怒ってしまったことを今でもはっきりと覚えている。祖母は、アルツハイマー型認知症を患っていて祖母自身も少し怒りっぽくなっていた。しかし、本当はとても優しく、掃除が大好きでキレイ好きな祖母なのだ。このころから私は、祖母との関係に悩んでいた。

アルツハイマー型認知症は、認知症の中で最も多い。主な症状は四つあり、記憶障害、判断能力の低下、見当識障害、その他の行動・心理症状というものがあるそうだ。祖母に全て当てはまっていた。

掃除のことで祖母に怒ってしまった時、祖母は怒り返し泣いた。私も泣いた。その後、冷静になり、普段はとても優しい祖母が何であんなに怒ったのか考えた。それは、みんなが夕食の支度をしている時、

祖母は、「自分も仕事をしなくてはいけない」と、思ったからだと思う。出来ることを探したのだ。それが掃除だったのだ。「みんなの役に立ちたい、必要とされたい」と、祖母は思った。私は考えた。私はどうしてあんなに祖母に怒ったのだろう。それは、私の中で、祖母は母を困らせている人だという認識があるからだ。私は、母のことが大好きで守ろうとする傾向がある。だから、祖母のせいで母が疲れている顔になると祖母に怒ってしまうのだ。私が幼い時、母は、病気を患っていた。今は治って本当に元気だ。祖母をはじめとするみんなが支えてくれたからだ。祖母は、膝が痛かったのにも関わらず母に代わり、家事を一生懸命してくれた。母は、今、祖母に恩返し気持ちも込めて祖母の状況を全て受け止めて、優しく支えているのだと思う。「今度はみんなではあばを支えよう」。そう考えることが出来た。

病気だから、忘れてしまうのは当たり前。色々なことが出来なくなることも。それを怒っても良くならない。さらに祖母が傷ついて悪くなってしまうかもしれない。今は完治する病気ではないから、前向きに考えることが大切なのだ。

日本では高齢化が進んでおり、認知症の人も増えるといわれている。だから、誰もが平和で幸せに仲良く暮らすためにも認知症のことを知るべきだ。人は、自分が必要とされていないと思うと悲しい。そのため、その人が出来ることを取り上げるのは一番やってはならない。

家の手伝いをしていると、祖母が

「ばあばもやるよ。」

と、言ってくれた。いつもなら、それを無視して私が一人でやってしまうが、

「お願いね。」

と、言う嬉しそうにやってくれた。その後、私が

「ありがとう。」

と、言う祖母も私もニコニコ笑顔。今では、祖母の実際の娘も、定年間近の仕事を辞め、祖父母に毎日会いに来てくれている。みんなの笑顔も自然に増え

た。父や兄も、祖父母に対して優しくなった。私は、みんなを支え合う笑顔あふれる家族のことが大好きだ。

